

令和4年度

「全国学力・学習状況調査」からの結果と考察

◆本調査について

- 全国の6年生対象
- 教科は国語、算数、理科3教科
- 国語、算数、理科には、知識及び技能を問う問題と、思考力、判断力、表現力等を問う問題が混在している。
- 評価の観点は、国語算数理科ともに、知識及び技能と、思考力、判断力、表現力の2つで、主体的に取り組む態度については行っていない。

◆結果

○国語

	平均正答率		
	本校	都	全国
全体	65	69	65.6
知識及び技能	66.7	72	70.5
思考力、判断力、表現力等（全体）	63.7	66.2	62
話すこと・聞くこと	70.6	69.1	66.2
書くこと	50	51.3	48.5
読むこと	67.2	72.1	66.6

- 平均正答率は、問題全体では65%で、ほぼ全国の正答率に近く都よりは下回っていた。学習指導要領の評価の観点別に見ると、『知識及び技能』では都より5.3%、全国より1.6%下回り、『思考力、判断力、表現力等』では都より2.5%下回り、全国より1.7%上回っていた。『思考力、判断力、表現力等』を項目別に見ると、「書くこと」では、都より1.3%下回り、全国より1.5%上回っていた。「読むこと」では、都より4.9%下回り、全国より0.6%上回っていた。「話すこと・聞くこと」は都より1.5%上回り、全国より4.4%上回っていた。
- 具体的な内容、問題形式では、『知識及び技能』の「言葉の特徴や使い方に関する事項」（短答式問題）は正答率が低く、『思考力、判断力、表現力等』では「話すこと・聞くこと」の「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」問題（記述式）で都や全国を上回った。また、「読むこと」の、物語や文章から想像したり考えたりしたことを、内容や字数など条件設定のもとで書く問題（記述式）では正答率が低かった。
- D層が35.4%だった。

○算数

	平均正答率		
	本校	都	全国
全体	60	67	63.2
知識及び技能	65.6	72.4	68.2
思考力、判断力、表現力等（全体）	53.8	60.5	56.7
数と計算	67.3	72.1	69.8
図形	61.3	68.6	64.0
変化と関係	49.0	57.6	51.3
データの活用	68.0	72.4	68.7

- 評価の観点を平均正答率で比較してみると、知識及び技能において本校は都より6.8%、全国よりも2.6%下回っている。『思考力、判断力、表現力等』において都よりも6.7%下回り、全国よりも2.9%下回っている。学習指導要領の領域別で比較してみると、A「数と計算」において本校は都よりも4.8%、B「図形」において7.3%、C「変化と関係」において8.6%、D「データの活用」において4.4%下回っている。
- 今回、選択式の問題形式が6問出題されたが、正答率47.4%だった。
- C層が33.3%、D層が27.7%合わせて64.7%だった。

○理科

	平均正答率		
	本校	都	全国
全体	58	65	63.3
知識及び技能	59.5	63.6	62.5
思考力、判断力、表現力等	57.8	66.5	63.7
「エネルギー」を柱とする領域	44.1	53.4	51.6
「粒子」を柱とする領域	60.0	62.4	60.4
「生命」を柱とする領域	69.8	77.4	75.0
「地球」を柱とする領域	54.9	67.7	64.6

- 評価の観点を平均正答率で比較してみると、知識及び技能において本校は都より7%、全国よりも5.3%下回っている。『思考力、判断力、表現力等』において都よりも8.7%下回り、全国よりも5.9%下回っている。学習指導要領の領域別で比較してみると、「エネルギー領域」において本校は都よりも9.3%、「粒子領域」において2.4%、「生命領域」において7.6%、「地球領域」において12.8%下回っている。
- 今回記述式の問題が3問出題されたが、正答率が42.5%だった。

◆考察

○国語

- ・『知識及び技能』では、漢字など言葉の特徴や使い方に関する内容について考えさせると共に、基礎基本の定着をさせていく必要がある。
- ・『思考力、判断力、表現力等』では、「読むこと」や「書くこと」において、条件設定（内容や字数）がある中で自分の考えをまとめて記述する力を付けていく必要がある。今後とも、「小岩小授業モデル」のもと、自分の考えを理由を明確にして書く機会や、目的や意図に応じて中心となる語や文を見つけて要約したりする機会を様々な教科においても広げていく。その中で、ある条件のもとで考えや内容をまとめる学習活動も行っていく。また、読書科を切り口に、更に物語や説明文への興味・関心をもたせ、読む力の資質・能力を伸ばしていく。日本語に課題がある児童については、日本語学級と連携しながら指導を行っていく。
- ・D層の重点指導のため、思考力育成のための問題解決的な学習（授業モデル）に基づく指導を継続する。

○算数

- ・基礎基本から繰り返し指導し、児童同士で説明しあい理解を深める指導を継続的に続けていく。
- ・プログラミングの学習に弱い。特に思考力を問う問題では、タブレットでの実際のアプリを使った操作を通して論理的な思考を養う必要があるため、論理的思考力を養うプログラミング学習を実施していく。
- ・「果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ」といった具体的な生活場面を示す問題の正答率が知識を問う問題であるにも関わらず低い。「割合」の単元では、生活体験を想起させながら、意味を捉えなおす必要がある。
- ・C層D層の重点指導のため、思考力育成のための問題解決的な学習（授業モデル）に基づく指導を継続する。教員の指導力向上のため、示範授業を実施する。また、東京ベーシックドリルや放課後補習教室を活用した基礎基本の定着の指導を継続して行う。

○理科

- ・両観点とも着実に学力が身に付いていると思われる。継続的に効果的な指導を続けていく。
- ・エネルギー領域、地球領域が特に苦手と考えられる。そのため、実験・観察活動を中心に体験活動を充実し、それらをもとに思考させる授業展開を重視していく必要がある。
- ・記述式問題においては、観察で得た結果を問題の視点で分析し、解釈し、自分の考えを書く力を高めていく必要がある。今後とも、自分の考えを理由を明確にして書き、説明する指導を続けていく必要がある。